

人手不足が言われています。団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年には 38 万人の介護職員が不足すると言われ、厚労省はその確保を重要な課題にしています。しかし福祉の人手不足の厳しさはまだ続くと思われ、我々も対応が求められています。以前から福祉の仕事は 3 K とか 4 K 職場などと言われ、求職市場での人気は今ひとつの状況です。福祉は大変だという印象があるのでしょうか。

私自身はボランティア活動が縁で障害児入所施設に就職したのですが、当時は経験のひとつとしてやってみようという軽い気持ちだったように思います。ただそんな私も周りの良き仲間や厳しい上司（お酒を飲んで語り合うことも）、そして未熟な私を頼って下さった利用者みなさんなどの見えない力によって導かれ、福祉の仕事の面白さや豊かさ、また奥深さを知ることができました。

現場では難しいことはもちろんあります。私も自分の力だけではどうにもならない現実直面し、悩みや葛藤が生じたことは何度もありました。そんな時は他施設の仲間との経験交流や勉強会が支えにもなりましたが、私にとっては「完全参加と平等」というテーマを掲げた国際障害者年（1981 年）が励みになりました。今後の障害者福祉の方向が指し示され、仕事の意味がより明確になり、少し力が入りはじめました。

さて、支援とは「それを必要とする方の生きづらさを受け止めながら、その方の自立へ向かおうとする気持ちを育て、また支えながら様々な社会的な生活技術を身につけられるようにする取り組み」と言えます。加えて、その方が生きがいを持って一市民として活動ができるよう環境を整えることも、支援サイドの大切な役割だと考えます。

ところで社会福祉法人武蔵野の職員行動指針は「行動、感謝、共感、向上」です。この「4 K」を踏まえて、さらに活力を高めたいと思います。

（平成 29 年 2 月）